

消 化 器 病 専 門 医

研修カリキュラム評価表



一般財団法人 日本消化器病学会

会員番号		入会日付	西暦	年	月	日
氏 名						

消化器病専門医研修実績

研修期間 (西暦年で記載のこと)	施設コード	施設区分	指導医番号 指導医署名・印
	研修施設名		
☐ 自 年 月 日 至 年 月 日 (年 ヶ月)		認定・関連・特関	⑩
☐ 自 年 月 日 至 年 月 日 (年 ヶ月)		認定・関連・特関	⑩
☐ 自 年 月 日 至 年 月 日 (年 ヶ月)		認定・関連・特関	⑩
☐ 自 年 月 日 至 年 月 日 (年 ヶ月)		認定・関連・特関	⑩
☐ 自 年 月 日 至 年 月 日 (年 ヶ月)		認定・関連・特関	⑩
☐ 自 年 月 日 至 年 月 日 (年 ヶ月)		認定・関連・特関	⑩
☐ 自 年 月 日 至 年 月 日 (年 ヶ月)		認定・関連・特関	⑩
☐ 自 年 月 日 至 年 月 日 (年 ヶ月)		認定・関連・特関	⑩

※初期研修修了後に行われた本学会認定の各施設における消化器専門医研修について記載すること。

※ 施設区分について、「認定施設-認定」、「関連施設-関連」、「特別関連施設-特関」のいずれかを○で囲むこと。

※『消化器病専門医研修歴』の証明には、施設ごとに、その施設における指導医(日本消化器病学会認定の指導医)の署名及び捺印が必要となります。

※ 上記施設における『消化器病専門医研修期間中』に休職(中断)期間が含まれている場合は、☑チェックを入れ、下記に休職期間を記載して下さい。認定研修期間中に、出産、疾病等に伴う休暇期間がある場合、6ヶ月以内は1回までは研修期間に含めることができます。(指導医による証明がある場合に限る)

休職期間	年 月 日～ 年 月 日	指導医署名・印
休職理由	妊 娠 ・ 出 産 ・ 育 児 ・ 傷 病 ・ 介 護 (該当するものを○で囲むこと)	⑩

＜申請者の情報＞

医籍登録年(西暦): _____ 年 取得している資格情報*: _____ (取得年(西暦): _____ 年)

* 申請時に必要な基本領域の専門医資格など

※医籍登録年が2019年以降の方は、研修カリキュラム評価表で指導医より評価など受ける他、消化器病学会版 J-OSLER (J-OSLER-G) で『疾患』を登録して研修確認を行うことが必須となります。

「消化器病専門医」研修 カリキュラム評価表について

注 意 事 項

「消化器病専門医」は、専門医認定試験受験前に消化器病専門医研修カリキュラムに沿った研修を受けていることが義務付けられております。

本冊子は、将来、「消化器病専門医」資格取得のための受験に際して申請書に添付していただくこととなりますので、それまでの間、大切に保管し、研修を受けた事項について記載しておいてください。

研修目標については変更されることがあるので、日本消化器病学会雑誌や学会ホームページ等を参考にしてください。

評価欄は、各項目の研修終了後、自己評価をしたのち、そのときの指導医の確認（押印）をいただってください。

評価は、次頁の“到達目標”を参考に表示してください。

所定のカリキュラムの研修及び研修期間が終了した時、指導医の署名を末尾の指導医書名欄に記載いただってください。

（指導医が複数の時は、主な指導医の署名で結構です。）

※自己評価は、上記レベルを確認の上、3～0を記入する。

※消化器病学会版 J-OSLER 利用者は、『疾患』項目（太枠内）は本評価表に記載せず、消化器病学会版 J-OSLER にて疾患を登録して指導医より評価を受けてください。

	到達目標				自己評価				指導医確認 (押印)	
	知識	技能	態度	症例 経験	知識	技能	態度	症例 経験		
I 基本的事項										
1 消化器系専門医としての研修目標										
1) どのような消化器系専門医であるべきか	3	3	3	0						
2) 消化器系専門医としてのプロフェッショナリズム	3	3	3	0						
3) 消化器病専門医として心得ておくべきこと										
① 医の倫理、患者の人権	3	3	3	0						
② 説明と同意 <informed consent>	3	3	3	3						
③ 患者—医師関係、コミュニケーション	3	3	3	3						
④ 患者支援	3	3	3	3						
⑤ 法的規制	3	3	3	0						
⑥ 医療行政（保険制度）、医療経済	3	3	3	0						
⑦ 安全管理	3	3	3	0						
⑧ 医療従事者の健康と安全、院内感染対策	3	3	3	1						
⑨ チーム医療	3	3	3	3						
⑩ EBM、ICTの活用	3	3	3	2						
⑪ 診療ガイドライン<指針>	3	3	3	2						
⑫ 利益相反 <Conflict of interest: COI>	3	3	3	1						
⑬ 臨床研究・臨床試験	2	2	2	2						
⑭ 疫学・統計学	2	2	2	2						
⑮ 学会参加、学会発表、論文発表	3	3	3	2						
⑯ 生涯学習、指導・教育	3	3	3	0						
⑰ 学習理論	2	2	2	0						
⑱ 放射線医学	3	3	3	2						
⑲ 病理学	3	3	3	2						

				到達目標				自己評価				指導医確認 (押印)
				知識	技能	態度	症例 経験	知識	技能	態度	症例 経験	
		⑩	遺伝子診断	2	1	2	2					
		⑪	漢方診療	2	2	2	2					
2 消化器系の解剖・生理学												
		1)	口腔、食道、胃、十二指腸	3	0	0	0					
		2)	小腸、結腸、直腸、肛門	3	0	0	0					
		3)	肝臓	3	0	0	0					
		4)	胆道	3	0	0	0					
		5)	脾臓	3	0	0	0					
		6)	腹膜、内臓脂肪	3	0	0	0					
		7)	後腹膜	3	0	0	0					
3 消化器症候と対応												
		1)	食思(欲)不振	3	3	3	3					
		2)	悪心・嘔吐	3	3	3	3					
		3)	おくび・げっぷ	3	3	3	3					
		4)	嚥下困難・障害	3	3	3	3					
		5)	胸やけ	3	3	3	3					
		6)	腹痛	3	3	3	3					
		7)	吐血・下血	3	3	3	3					
		8)	便秘・下痢	3	3	3	3					
		9)	発熱	3	3	3	3					
		10)	黄疸	3	3	3	3					
		11)	腹部膨満	3	3	3	3					
		12)	腹水	3	3	3	3					
		13)	腹膜刺激症状	3	3	3	3					

		到達目標				自己評価				指導医確認 (押印)
		知識	技能	態度	症例 経験	知識	技能	態度	症例 経験	
	14) 腹部腫瘍	3	3	3	3					
	15) 肝・脾腫	3	3	3	3					
	16) 門脈圧亢進症	3	3	3	3					
	17) 内臓肥満	3	3	3	3					
4 救急病態と対応										
1) 腹痛・急性腹症										
	① 鑑別診断と救急対応	3	3	3	3					
	② 腹膜刺激症状	3	3	3	2					
	③ 腸閉塞<イレウス>	3	3	3	2					
	④ 腸重積症, 腸管軸捻転症	3	3	3	2					
	⑤ 消化管穿孔	3	3	3	2					
	⑥ 腸間膜動脈閉塞症, 腸間膜静脈血栓症	3	3	3	2					
	⑦ 嵌頓ヘルニア	3	3	3	2					
	⑧ 急性(汎発性)腹膜炎	3	3	3	2					
	⑨ 急性胆嚢・胆管炎, 胆石発作	3	3	3	3					
	⑩ 急性膵炎	3	3	3	3					
	⑪ 消化器疾患以外の原因	3	3	3	3					
	⑫ 機能的消化管障害	3	3	3	2					
	2) 食道異物	3	3	3	3					
	3) 消化管出血	3	3	3	3					
	4) 発熱と腹部症状	3	3	3	3					
	5) 嘔吐と下痢	3	3	3	3					
	6) 黄疸	3	3	3	3					
	7) 意識障害	3	3	3	3					

到達目標					自己評価				指導医確認 (押印)
知識	技能	態度	症例 経験	知識	技能	態度	症例 経験		
5 全身システムと疾患									
1) 栄養と代謝	3	3	3	3					
2) 消化器系の感染症	3	3	3	2					
3) 血液凝固と線溶現象	3	3	3	2					
4) 免疫異常、自己免疫性疾患	3	3	3	2					
6 臨床腫瘍学									
1) がん診療の基礎									
① がん生物学	3	2	3	3					
② がん病理	3	3	3	2					
③ 病期分類	3	3	3	3					
2) がん診療における臨床試験	2	2	2	1					
3) がん治療の基本原則									
① がん告知と告知後のケア	3	3	3	0					
② 緩和医療と終末期医療	2	2	2	0					
4) がん治療方法									
① がん化学療法	2	2	3	0					
② 放射線療法	2	2	2	0					
③ 外科療法	2	2	2	0					
7 先端医療									
1) 低侵襲治療(内視鏡下治療・腹腔鏡下治療を含む)	2	2	2	1					
2) 臓器移植	2	1	1	0					
3) ロボット治療	2	1	1	1					
4) 再生医療、iPS細胞	1	1	1	0					
5) がんの免疫療法	2	1	1	1					

到達目標					自己評価				指導医確認 (押印)
知識	技能	態度	症例 経験	知識	技能	態度	症例 経験		
8 消化器内視鏡学総論									
1) 消化器内視鏡専門医として心得ておくべきこと									
① 消化器内視鏡の適応と禁忌	3	2	3	2					
② 消化器内視鏡の 安全管理	3	2	2	2					
③ 消化器内視鏡の洗浄・消毒・滅菌	3	2	2	2					
④ 消化器内視鏡の偶発症対策	3	2	2	2					
⑤ 消化器内視鏡の循環機能を含む全身管理(術前・術中・術後)	3	2	2	2					
⑥ 消化器内視鏡の前処置と前準備(鎮静)	3	2	3	3					
⑦ 消化器内視鏡の抗血栓療法施行症例への対応	3	2	2	2					
2) 消化器内視鏡機器									
① 内視鏡(軟性内視鏡、超音波内視鏡、カプセル内視鏡、など)	3	2	2	2					
② 内視鏡システム構成機器(光源、プロセッサ、超音波観測装置、ワークステーション、など)	3	2	2	2					
③ 内視鏡周辺機器(高周波焼灼機器、呼吸器・循環器モニタリング装置、CO2送気装置、など)	3	2	2	2					
④ 内視鏡処置具(生検鉗子、クリップ、高周波スネア、高周波ナイフ、など)	3	2	2	2					

II 消化管疾患									
1 検査									
1) 糞便検査	3	2	3	3					
2) 消化管感染症の検査									
① <i>Helicobacter pylori</i> 検出	3	2	3	3					
3) 消化吸収試験	2	1	3	1					
4) 蛋白漏出試験	2	1	3	1					
5) 肛門機能検査	1	1	3	0					
6) 超音波検査法	3	3	3	3					

		到達目標				自己評価				指導医確認 (押印)
		知識	技能	態度	症例 経験	知識	技能	態度	症例 経験	
	7) 消化管造影検査									
	① 食道・胃・十二指腸造影検査	3	2	3	2					
	② 小腸造影検査	3	2	3	2					
	③ 大腸(注腸造影検査)	3	3	3	3					
	④ CT	3	3	3	3					
	⑤ CT colonography、MRI enterography	2	1	3	1					
	⑥ 腹部血管造影	2	1	3	2					
	⑦ シンチグラフィ	2	1	3	2					
	⑧ FDG-PET	2	1	3	2					
	8) 消化器内視鏡検査									
	① 上部消化管内視鏡	3	3	3	3					
	② 小腸(シングルバルーン内視鏡・ダブルバルーン内視鏡、小腸カプセル内視鏡、パテンシーカプセル)	2	2	2	2					
	③ 下部消化管内視鏡	3	2	3	2					
	④ 大腸カプセル内視鏡	2	1	1	1					
	⑤ 超音波内視鏡<EUS>	2	1	1	1					
⑥ 大腸超音波内視鏡<EUS>	2	1	1	1						
⑦ 消化器内視鏡観察法の分類と原理	3	1	1	1						
⑧ 上部消化管内視鏡の適応と禁忌	3	3	3	3						
⑨ 下部消化管内視鏡の適応と禁忌	3	2	3	2						
⑩ 上部消化管内視鏡の偶発症と予防・対処法	3	2	2	2						
⑪ 下部消化管内視鏡の偶発症と予防・対処法	3	2	2	2						
⑫ 前処置と前準備(鎮静)	3	2	3	3						
⑬ 内視鏡周辺機器(高周波焼灼機器、呼吸器・循環器モニターリング装置、CO2ガス送気・関連機器)	3	2	3	2						
⑭ 処置具	3	2	3	2						

		到達目標				自己評価				指導医確認 (押印)
		知識	技能	態度	症例 経験	知識	技能	態度	症例 経験	
9) 消化器内視鏡検査診断法										
	① 上部消化管挿入手技と通常観察	3	3	3	3					
	② バルーン内視鏡(シングル・ダブル)挿入手技と通常観察	2	1	1	1					
	③ 下部内視鏡挿入手技と通常観察	3	2	2	2					
	④ 消化管良性疾患に対する内視鏡診断	3	2	2	3					
	⑤ 消化管悪性疾患に対する内視鏡診断	3	2	2	3					
	⑥ ヨード染色	2	2	2	2					
	⑦ 拡大内視鏡観察	2	1	1	1					
	⑧ 画像強調内視鏡(IEE)	2	1	1	1					
	⑧ 消化管疾患に対する超音波内視鏡診断	2	1	1	1					
	⑨ 生検・内視鏡による検体採取	3	2	2	2					
2 食事・栄養療法・生活指導		3	3	3	3					
3 基本的治療手技										
	1) 胃洗浄	3	3	3	2					
	2) 胃管挿入	3	3	3	3					
	3) イレウス管挿入	3	3	3	2					
	4) Sengstaken-Blakemoreチューブ挿入	3	3	3	2					
	5) 浣腸, 高圧浣腸	3	3	3	2					
	6) 人工肛門管理<ストーマケア>	2	2	2	1					
	7) 腹腔穿刺と排液	3	3	3	3					
	8) 高カロリー輸液	3	3	3	3					
	9) 経管栄養(成分栄養も含む)	3	3	3	3					
4 薬物療法										
	1) 鎮痙・鎮痛薬	3	3	3	3					

		到達目標				自己評価				指導医確認 (押印)
		知識	技能	態度	症例 経験	知識	技能	態度	症例 経験	
	2) 鎮吐薬	3	3	3	3					
	3) 下剤・浣腸	3	3	3	3					
	4) 止痢薬・整腸薬	3	3	3	3					
	5) 健胃消化薬・消化管運動調整薬	3	3	3	3					
	6) 消化性潰瘍薬・制酸薬	3	3	3	3					
	7) <i>Helicobacter pylori</i> < <i>H. pylori</i> >除菌薬	3	3	3	3					
	8) 5ASA製剤	3	3	3	2					
	9) ステロイド薬	3	3	3	2					
	10) 免疫調整薬	3	3	3	2					
	11) 抗体製剤	3	3	3	2					
	12) 抗菌薬	3	3	3	3					
	13) 痔疾用薬	3	3	3	3					
	14) 消化管機能調整薬	3	3	3	3					
5 専門的治療法										
1) 内視鏡治療										
	① 食道静脈瘤結紮術<EVL>・硬化療法<EIS>	2	2	3	2					
	② 食道腫瘍に対する内視鏡治療	2	1	1	1					
	③ 食道狭窄に対する治療	2	1	1	1					
	④ アカラシアに対する内視鏡治療	2	1	1	1					
	⑤ 食道異物除去術	2	2	2	2					
	⑥ 胃静脈瘤に対する内視鏡治療	2	1	1	1					
	⑦ 胃十二指腸腫瘍に対する内視鏡治療(EMR/ESD/LECS)	3	1	1	1					
	⑧ 胃・十二指腸異物除去術	2	2	2	2					
	⑨ GOO<Gastric outlet obstruction>の狭窄治療	1	1	1	1					

					到達目標				自己評価				指導医確認 (押印)
					知識	技能	態度	症例 経験	知識	技能	態度	症例 経験	
		⑩ 内視鏡的止血術(局注、クリップ、焼灼、止血鉗子)	3	3	3	3							
		⑪ 内視鏡治療術後処置及び偶発症	2	1	1	1							
		⑫ 小腸 狭窄治療	2	1	1	1							
		⑬ 大腸狭窄治療	2	1	1	1							
		⑭ 大腸・小腸腫瘍摘出											
		1> ホットバイオプシー、コールドフォーセプスポリペクトミー	2	1	1	1							
		2> EMR/ポリペクトミー	2	1	1	1							
		3> ESD	2	1	1	1							
		4> 内視鏡切除標本取り扱いと根治度評価	2	2	2	2							
		2) 炎症性腸疾患への特殊療法	3	2	3	2							
		3) 胃瘻造設と管理	3	1	3	1							
		4) がん化学療法	3	1	3	1							
		5) 放射線治療	3	1	3	1							
		6 外科手術（腹腔鏡下手術も含む）											
1) 食道													
① 腫瘍摘出術			1	1	1	1							
② アカラシアに対する手術			1	1	1	0							
③ 狭窄に対する手術			1	1	1	0							
④ 裂孔ヘルニア根治手術			1	1	1	0							
⑤ 頸部食道切除再建			1	1	1	0							
⑥ 胸部食道切除再建			1	1	1	0							
⑦ 下部食道噴門切除再建			1	1	1	0							
⑧ 穿孔に対する手術			1	1	1	1							
2) 胃, 十二指腸													

				到達目標				自己評価				指導医確認 (押印)
				知識	技能	態度	症例 経験	知識	技能	態度	症例 経験	
		① 幽門側胃切除術(幽門保存胃切除術含む)		2	1	1	1					
		② 噴門側胃切除術		2	1	1	0					
		③ 胃全摘術		2	1	1	1					
		④ 胃部分切除術		1	1	1	1					
		⑤ 胃腸吻合術		1	1	1	1					
		⑥ 迷切術		1	1	1	0					
		⑦ 広範囲胃切除術		1	1	1	1					
		⑧ 大網充填術		1	1	1	0					
	3) 小腸, 大腸											
		① 虫垂切除術		2	1	1	1					
		② 腸切開・縫合・吻合術		1	1	1	0					
		③ 腸瘻造設・閉鎖術		1	1	1	0					
		④ 小腸切除術		1	1	1	0					
		⑤ 結腸切除術		2	1	1	1					
		⑥ 大腸全摘術		1	1	1	0					
		⑦ 直腸切除術		2	1	1	1					
		⑧ 直腸切断術		1	1	1	0					
		⑨ 骨盤内臓全摘術		1	1	1	0					
	4) 肛門管とその周囲皮膚											
		① 痔核, 痔瘻, 裂肛に対する手術		1	1	1	1					
		② 経肛門的直腸腫瘍摘出術		1	1	1	0					
		③ 肛門癌に対する手術		1	1	1	0					
		④ 直腸脱に対する手術		1	1	1	0					
		⑤ 直腸・肛門奇型の手術		1	1	1	0					

		到達目標				自己評価				指導医確認 (押印)
		知識	技能	態度	症例 経験	知識	技能	態度	症例 経験	
7 疾患 ※消化器病学会版 J-OSLER 利用者は、本評価表に記載せず、消化器病学会版 J-OSLER にて疾患を登録して評価を受けて下さい。										
1) 食道疾患										
①	食道炎, 食道潰瘍, 胃食道逆流症<GERD>	3	3	3	3					
②	食道運動異常症(食道アカラシア)	3	1	3	1					
③	食道癌	3	3	3	3					
④	食道・胃静脈瘤	2	2	3	2					
2) 胃・十二指腸疾患										
①	Mallory-Weiss症候群	3	2	3	2					
②	急性胃炎・急性胃粘膜病変 <AGML>	3	2	3	2					
③	アニサキス症	3	2	3	1					
④	慢性胃炎、萎縮性胃炎	3	3	3	3					
⑤	胃・十二指腸潰瘍<消化性潰瘍>	3	3	3	3					
⑥	<i>Helicobacter pylori</i> < <i>H. pylori</i> >感染胃炎	3	2	3	2					
⑦	胃腺腫、胃ポリープ	3	2	3	2					
⑧	胃癌	3	3	3	3					
⑨	メネトリエ病	3	2	3	1					
3) 小腸, 大腸疾患										
①	感染性腸炎(腸管感染症、細菌性食中毒)	3	3	3	3					
②	虫垂炎	3	3	3	2					
③	炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、Crohn病)	3	2	3	2					
④	薬物性腸管障害	2	2	3	2					
⑤	非特異性腸潰瘍	2	2	3	1					
⑥	大腸ポリープ、大腸腺腫	3	3	3	3					
⑦	結腸癌、直腸癌	3	3	3	3					

				到達目標				自己評価				指導医確認 (押印)
				知識	技能	態度	症例 経験	知識	技能	態度	症例 経験	
		⑧ 小腸腫瘍		3	2	3	1					
		⑨ 消化管ポリポース		3	2	3	1					
		⑩ 遺伝性非ポリポース大腸癌〈Lynch症候群〉		3	2	3	1					
		⑪ 吸収不良症候群・蛋白漏出性腸症		3	2	3	1					
		⑫ 虚血性大腸炎		3	3	3	2					
		⑬ 胃切除後症候群(ダンピング症候群、輸入脚症候群、胃切除後栄養障害、盲係蹄症候群)		2	1	3	1					
		⑭ 顕微鏡腸炎		3	3	3	1					
		⑮ 粘膜脱症候群、Cap polyposis		3	2	3	1					
		⑯ 腸管気腫症		3	2	3	1					
		⑰ 腸間膜脂肪織炎		3	2	3	1					
		⑱ 静脈硬化性大腸炎		3	2	3	1					
		⑲ 腸管子宮内膜症		3	2	3	1					
	4) 肛門疾患											
		① 痔疾患、肛門管とその周囲皮膚		2	2	3	2					
		② 肛門癌		1	1	3	1					
		③ 直腸脱		1	1	3	1					
	5) 機能性疾患											
		① 機能性ディスベプシア〈FD〉		3	3	3	2					
		② 過敏性腸症候群〈IBS〉		3	3	3	2					
	6) 全消化管に関連する疾患											
		① 消化管悪性リンパ腫		3	2	3	2					
		② 神経内分泌腫瘍〈消化管カルチノイド腫瘍〉		3	2	3	2					
		③ 消化管粘膜下腫瘍(リンパ腫を除く)		3	2	3	2					
		④ NSAID関連消化管傷害		3	3	3	2					

				到達目標				自己評価				指導医確認 (押印)
				知識	技能	態度	症例 経験	知識	技能	態度	症例 経験	
			⑤ 血管形成異常	3	2	3	1					
			⑥ 放射線性消化管傷害	3	3	3	1					
			⑦ 憩室性疾患(憩室炎、憩室出血)	3	2	3	2					
			⑧ 全身性疾患に伴う消化管病変(消化管Behçet、消化管アミロイドーシス、膠原病関連消化管疾患、IgA血管炎(Schö nlein-Henoch紫斑病))	3	2	3	2					
			⑨ 消化管アレルギー、好酸球性胃腸炎	3	2	3	1					

III 肝疾患

1 検査

1) 肝機能検査

① 肝予備能評価	3	3	3	3					
② その他の肝機能検査	3	3	3	3					

2) 肝炎ウイルスマーカー

① A型, B型, C型, D型, E型	2	2	3	2					
② EBウイルス感染症, サイトメガロウイルス感染症	2	2	3	2					

3) 免疫学的検査

① 免疫グロブリン	3	3	3	3					
② 自己抗体	3	3	3	3					
③ 薬物リンパ球刺激試験	2	2	3	2					

4) 腫瘍マーカー

① 肝細胞癌	3	2	3	2					
② 肝内胆管癌	3	1	3	2					
③ 転移性肝癌	3	2	3	2					

5) 線維化マーカー

	1	1	1	1					
--	---	---	---	---	--	--	--	--	--

6) 画像診断

① 腹部単純エックス線	3	3	3	3					
-------------	---	---	---	---	--	--	--	--	--

				到達目標				自己評価				指導医確認 (押印)
				知識	技能	態度	症例 経験	知識	技能	態度	症例 経験	
		② 超音波検査<US>	3	3	3	3						
		③ 肝硬度検査	1	1	1	1						
		④ コンピュータ断層撮影<CT>	3	3	3	3						
		⑤ 磁気共鳴画像<MRI>	3	3	3	3						
		⑥ ポジトロンエミッション断層撮影<FDP-PET>	2	2	2	2						
		⑦ 腹部血管造影(動脈造影・静脈造影・門脈造影・CTA・CTAP)	2	1	2	3						
	7) 肝生検	3	1	2	1							
2 食事・栄養療法・生活指導			3	3	3	3						
3 薬物療法												
	1) 肝作用薬(UDCA, グリチルリチン製剤)		3	3	3	3						
	2) 肝不全・肝性脳症治療薬		3	3	3	3						
	3) 利尿薬		3	3	3	3						
	4) アルブミン製剤		3	3	3	3						
	5) 抗HBV薬		2	2	3	2						
	6) 抗HCV薬		2	2	3	2						
4 専門的治療法												
	1) 肝細胞癌に対する非外科的治療											
	① ラジオ波焼灼療法<RFA>		2	1	1	1						
	② エタノール注入療法<PEI>		2	1	1	1						
	③ 肝動脈化学塞栓療法<TACE>・肝動注化学療法		2	1	1	1						
	④ がん化学療法(分子標的薬も含む)		2	1	1	1						
	⑤ 放射線治療		2	1	1	1						
	2) 原発性・転移性肝癌に対する外科治療(腹腔鏡手術を含む)		2	1	1	1						
3) 肝移植		2	1	1	0							

					到達目標				自己評価				指導医確認 (押印)
					知識	技能	態度	症例 経験	知識	技能	態度	症例 経験	
5 行政と肝疾患診療													
1) 病診連携					2	1	1	1					
2) 消化器疾患診療に関連する法律、制度					2	1	1	1					
3) 消化器関連の感染症法					2	2	2	2					
6 疾患 ※消化器病学会版 J-OSLER 利用者は、本評価表に記載せず、消化器病学会版 J-OSLER にて疾患を登録して評価を受けて下さい。													
1) 肝疾患													
① 急性肝炎(A型、B型、C型、E型、EBウイルス、サイトメガロウイルス)					3	2	3	2					
② 劇症肝炎					3	1	2	1					
③ 慢性肝炎					3	2	3	2					
④ 自己免疫性肝炎<AIH>					3	2	3	2					
⑤ 肝硬変					3	2	3	2					
⑥ 原発性胆汁性胆管炎<PBC>					3	2	3	2					
⑦ 原発性硬化性胆管炎<PSC>					3	2	3	1					
⑧ 肝内胆汁うっ滞					2	2	3	1					
⑨ 閉塞性黄疸					3	2	3	2					
⑩ 体質性黄疸					2	2	3	1					
⑪ 薬物性肝障害					3	2	3	2					
⑫ アルコール性肝障害					3	2	3	2					
⑬ 非アルコール性脂肪性肝障害 <NAFLD>、NAFL、非アルコール性脂肪肝炎<NASH>					3	2	3	2					
⑭ 肝膿瘍					3	2	3	2					
⑮ 寄生虫性肝疾患					2	2	2	1					
⑯ 肝嚢胞					3	2	3	2					
⑰ 肝血管腫					3	2	3	2					
⑱ 肝細胞癌					3	2	3	2					

				到達目標				自己評価				指導医確認 (押印)
				知識	技能	態度	症例 経験	知識	技能	態度	症例 経験	
			⑲ 肝内胆管癌	2	1	3	1					
			⑳ 転移性肝癌	2	1	3	2					
			㉑ 門脈圧亢進症(特発性門脈圧亢進症・肝外門脈閉塞症を含む)	3	2	3	2					
			㉒ Budd-Chiari症候群	2	2	2	1					
			㉓ ヘモクロマトーシス、ヘモジデローシス	2	2	2	1					
			㉔ Wilson病	2	2	2	1					
			㉕ リケッチア感染症(ツツガムシ病、日本紅斑熱)	2	1	2	1					
			㉖ その他の代謝性肝障害(ポルフィリン症、シトルリン血症等)	2	2	2	1					
			㉗ 放射線性肝炎	1	1	1	1					
			㉘ Reye症候群、先天性肝線維症・カロリー病	1	1	1	1					
			㉙ 肝血管腫以外の肝良性腫瘍	1	1	1	1					
			㉚ 肝感染症(Weil病・クラミジア/淋菌・肝結核・梅毒)	1	1	1	1					
			㉛ 全身疾患に伴う肝疾患	1	1	1	1					
			㉜ 肝腎症候群	1	1	1	1					
			㉝ 特発性新生児肝炎症候群、新生児乳児胆汁うっ滞	1	1	1	1					
			㉞ 妊娠に伴う肝疾患	1	1	1	1					

IV 胆道・膵疾患

1 検査

1) 肝胆道系酵素	3	3	3	3					
膵酵素 2) 血清・尿アミラーゼ, アミラーゼアイソザイム, 血清エラスターゼ-1, 血清リパーゼ, トリプシン, ホスホリパーゼA2	3	3	3	3					
3) 免疫学的検査									
① 免疫グロブリン	3	3	3	3					
② 自己抗体	3	3	3	3					
4) 腫瘍マーカー	3	3	3	3					

					到達目標				自己評価				指導医確認 (押印)
					知識	技能	態度	症例 経験	知識	技能	態度	症例 経験	
5) 膵外分泌機能検査													
① BT-PABA<PFD>試験					2	2	2	2					
6) 画像診断													
① 腹部超音波検査 <US>					3	3	3	3					
② コンピュータ断層撮影 <CT>					3	3	3	3					
③ 磁気共鳴画像 <MRI, MRCP>					3	3	3	3					
④ ポジトロン断層法 <PET>					2	2	2	2					
7) 胆膵領域内視鏡診断													
① 胆膵内視鏡の適応と禁忌					2	1	1	1					
② 胆膵内視鏡の前準備・前処置					2	1	1	1					
③ 胆膵内視鏡の偶発症と予防・対処法					2	1	1	1					
④ 内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査法 <ERCP>					2	1	1	1					
⑤ 超音波内視鏡検査 <EUS, EUS-FNA>					2	1	1	1					
⑥ 胆膵内視鏡による膵胆道良性疾患診断					2	2	2	2					
⑦ 胆膵内視鏡による膵胆道悪性疾患診断					2	2	2	2					
⑧ 経乳頭的ブラシ細胞診・生検					2	1	1	1					
⑨ 経口胆道鏡・膵管鏡(POCS/POPS)					2	1	1	1					
⑩ 経皮経肝胆道鏡検査(PTCS)					2	1	1	1					
⑪ 管腔内超音波検査(IDUS)					2	1	1	1					
⑫ EUS-FNA					2	1	1	1					
⑬ マノメトリー(内圧測定)					2	1	1	1					
2 食事・栄養療法・生活指導					3	3	3	3					
3 薬物療法													
1) 利胆薬					3	3	3	2					

		到達目標				自己評価				指導医確認 (押印)
		知識	技能	態度	症例 経験	知識	技能	態度	症例 経験	
	2) 消化酵素薬	3	3	3	3					
	3) 蛋白分解酵素阻害薬	3	3	3	2					
	4) 抗菌薬	3	3	3	3					
	4 専門的治療法									
	1) 胆道ドレナージ	2	2	2	2					
	2) 薬物療法(消) がん化学療法(分子標的治療薬含む)	2	2	2	2					
	3) 放射線治療	2	1	2	1					
	4) 内視鏡治療									
	① 内視鏡的胆道ドレナージ(EBD,ENBD、ENGBD)	2	1	1	1					
	② EST とEPBD(EPLBD も含む)	2	1	1	1					
	③ 経乳頭の胆管結石摘石術(機械的砕石具含む)	2	1	1	1					
	④ 内視鏡的乳頭切除術(endoscopic papillectomy)	2	1	1	1					
	⑤ 経乳頭の膵管ドレナージ	2	1	1	1					
	⑥ 内視鏡的WONドレナージ	2	1	1	1					
	⑦ 内視鏡的膵管結石摘石術	2	1	1	1					
	⑧ 胆膵内視鏡治療術後処置及び偶発症	2	1	1	1					
	5) 体外衝撃波結石破砕術法	2	1	1	1					
	5 外科手術(腹腔鏡下手術も含む)									
	1) 胆嚢摘出術	2	1	1	1					
	2) 胆道消化管吻合術	2	1	1	1					
	3) 膵管空腸吻合術	2	1	1	1					
	4) 膵嚢胞手術	2	1	1	1					
	5) 膵頭十二指腸切除術(幽門輪温存含む)	2	1	1	1					
	6) 膵体尾部切除術	2	1	1	1					

		到達目標				自己評価				指導医確認 (押印)
		知識	技能	態度	症例 経験	知識	技能	態度	症例 経験	
	7) 脾全摘術	2	1	1	1					
	8) 脾部分切除 (核出術を含む)	2	1	1	1					
6 胆道疾患 ※消化器病学会版 J-OSLER 利用者は、本評価表に記載せず、消化器病学会版 J-OSLER にて疾患を登録して評価を受けて下さい。										
1) 良性疾患										
① 胆嚢結石症、胆嚢炎		3	3	3	3					
② 胆管結石、胆管炎、肝内結石		3	3	3	3					
③ 胆嚢ポリープ、胆嚢腺筋腫症		3	3	3	3					
④ 脾・胆管合流異常 (先天性胆道拡張症)		2	2	2	2					
⑤ IgG4関連硬化性胆管炎		2	2	2	2					
⑥ Alagille症候群		1	1	1	1					
2) 悪性疾患										
① 肝外胆管癌		2	2	2	2					
② 胆嚢癌		2	2	2	2					
③ 十二指腸乳頭部癌		2	2	2	2					
7 膵疾患 ※消化器病学会版 J-OSLER 利用者は、本評価表に記載せず、消化器病学会版 J-OSLER にて疾患を登録して評価を受けて下さい。										
1) 炎症性疾患										
① 急性膵炎、膵仮性嚢胞		3	2	3	2					
② 慢性膵炎、膵石症		3	2	3	2					
③ 自己免疫性膵炎		3	2	3	2					
④ 遺伝性膵炎		2	1	1	1					
2) 腫瘍性疾患										
① 膵癌 (通常型)		3	3	3	3					
② 膵神経内分泌腫瘍 <pNET>		2	2	2	2					
③ 膵腺房細胞癌		2	1	1	1					

				到達目標				自己評価				指導医確認 (押印)	
				知識	技能	態度	症例 経験	知識	技能	態度	症例 経験		
			④ 転移性膵腫瘍	2	1	1	1						
			⑤ 膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN)(分枝型・主膵管型)	3	2	3	2						
			⑥ その他の膵嚢胞	2	2	2	2						
			3) 先天奇形、膵内副脾										
				① 膵先天奇形	2	1	1	1					
				② 膵内副脾	2	1	1	1					
V 腹腔・腹壁疾患													
1 ヘルニア修復術													
			1) 鼠径ヘルニア	2	1	1	1						
			2) 大腿ヘルニア	2	1	1	0						
			3) 閉鎖孔ヘルニア	2	1	1	0						
2 疾患 ※消化器病学会版 J-OSLER 利用者は、本評価表に記載せず、消化器病学会版 J-OSLER にて疾患を登録して評価を受けて下さい。													
			① 鼠径ヘルニア、大腿ヘルニア、閉鎖孔ヘルニア	2	2	2	2						
			② 細菌性腹膜炎(特発性細菌性腹膜炎も含む)	2	2	2	1						
			③ 癌性腹膜炎	2	2	2	2						
			④ 腹膜腫瘍(偽粘液腫、中皮腫)	1	1	1	1						
			⑤ 後腹膜腫瘍	1	1	1	1						
			⑥ 後腹膜線維症	1	1	1	1						

2018年9月6日 現在

申請者(表紙記載氏名)は、消化器病専門医研修カリキュラムに沿った研修及び所定の研修期間を行っていることを証明致します。

証明日 (西暦) 年 月 日

認定施設名:

指導医署名:

印

